

18 狩野文庫（東北大学）と蓬左文庫（名古屋）の古い馬骨図について

松尾信一

演者は古解剖図（動物や人）に関心をもつて調べている。今回は表題の全身骨格図について報告する。

東北大学図書館狩野文庫の『馬骨図』は一五八×一〇〇センチの一枚の紙に、名古屋市蓬左文庫の『馬の図』は一六二×一二二センチの広さの紙に、ともに、ほぼ類似的の馬の左側全身骨格図が線画で描いてあり、一部、彩色（白色と黄色）もされている。図はかなり実証的である。骨名は両図とも同じである。

狩野文庫の図には年代の明記がなく、一方、蓬左文庫の骨の左下に、「聖徳太子侍従臣橘猪弼四十七代、行燔軒太入正次（正沢？）。尾陽住、唯独軒、宗栄。両家図之」とある。これら人物は尾張藩の太子流の馬医で、時代は寛文末から元文の頃（二六七—一七四〇年）と分った。

中国の明・清の馬医書には馬骨名はあるが、馬骨図は日本特有のものと考えられる。今回の馬骨図の骨名は中国馬書と共通のものが多い。以下括弧内に演者が検当した現在の家畜解剖学用語を記す。

〔脊柱〕項鎖骨九節（頸椎7と前位胸椎2）、次子骨一節（第3胸椎）、髻甲骨一節（第4胸椎）、後脊椎二十一節（胸椎と腰椎）、棚子骨六節（腰椎横突起）、接脊骨六節（仙骨）、尾脰骨一節（尾椎？）。〔胸部〕臆子骨（第1肋骨）、肋扇骨十二対（真肋）、辺骨六対（仮肋）。〔前肢〕膊骨（肩甲骨）、膊尖骨（肩甲棘）、弓子骨（肩甲軟骨）、槍風骨（上腕骨）、肘骨（尺骨）、外乗重骨（橈骨）、裏上重骨（橈骨）、膝蓋骨（橈骨遠位端）、膝角骨（橈骨遠位端）、柱蓋骨（手根骨）、攢筋骨（第3中手骨又は大中手骨）、附骨（第4中手骨又は小中手骨）、子骨（第1指骨）、柱蹄骨（第2・3指骨）、蹄胎骨（第3指骨）、掌骨（第3指骨又は蹄骨）、蹠蹄骨（種子骨）。〔後肢〕三山骨（腸骨仙結節）、硯子骨（腸骨寛結節）、髌骨（坐骨）、腿脰骨（大腿骨）、雁翅骨（大腿骨遠位端・膝蓋骨？）、大膀骨（大腿骨大転子）、小膀骨（大腿骨第3転子）、掠草骨（脛骨）、疾莉骨（脛骨遠位端又は距骨）、鵝鼻骨（踵骨隆起）、

鳥筋骨(踵骨)、合子骨(距骨)、掲骨(足根骨)、鹿節骨(第3中足骨)、附骨(第4中足骨)、越骨(中足骨遠位端)、以下前肢と同名。〔頭蓋〕天頂骨(後頭骨項稜)、伏兎骨(後頭骨頸靜脈突起)、脳骨(頭蓋の一部)、額角骨(頭頂骨)、額骨(頭頂骨)、垂睛骨(前頭骨側頭面)、眼箱骨(眼窩輪の骨)、尖骨・閃骨(淚骨頬骨の境界部)、眉稜骨(側頭骨頬骨突起)、松子骨(上顎骨顏稜)、鼻梁骨(鼻骨)、鼻隔骨(鼻骨上顎骨の境界部)、鼻筒骨(切歯骨?)、鼻素骨(鼻骨)、上頷骨(切歯骨)、上排歯骨下排歯骨上下四十齒骨(齒槽のある骨、上顎骨切歯骨下顎骨)、頬腮骨(下顎骨下顎枝)、腮車骨(下顎骨顔面血管切痕)、下頷骨(下顎骨)。

狩野文庫図は前後肢左側だけ、蓬左文庫図は四肢が描いてある。

(横浜市)